

■特集レポート：『査読依頼・日数』の集計結果
■機能紹介：Reviewer Locator ～30日間無料トライアル実施中！～
■2016年 運用開始ジャーナル

S1M NEWS 特集レポート

国内の査読状況『査読依頼・日数』の集計結果

これまでのアンケートや日々のお問い合わせを通じて、多くの方より「他のジャーナルの査読状況に関する情報が知りたい」というご要望をいただいております。そこで今号のS1M NEWSでは、査読の受諾率や提出までにかかる期間など、査読にまつわる様々なデータをご紹介します。

杏林舎経由でS1Mをご利用いただいている160ジャーナルにおいて①初回投稿論文 ②投稿期間が2016年1月1日～2016年12月31日に該当する論文の査読を対象として集計を行いました。さらに対象を英文誌に絞り、査読者の所属国別に集計を行いました。

査読を受諾する確率

調査対象となる全データの平均を調べると、受諾72.2%、辞退19.8%、返答なし8.0%でした。和文誌は英文誌に比べて査読を受諾していただける確率が高く、また応答率も高いことがわかりました。英文誌を対象を絞って国内外の査読者を比較してみると、日本の査読者は海外の査読者に比べて査読の受諾率が高く、また応答率も高いという和文誌と類似した結果となりました。

査読依頼への応答にかかる日数

調査対象全体では平均して査読依頼への応答には1.85日かかっていることがわかりました。どの集計結果をみても査読依頼への応答には平均して2日前後とあまりバラツキがないようです。和文誌、英文誌ともに査読依頼への応答にはほぼ半数の査読者が1日以内に回答しており、3日以内には70%近くが回答していることがわかります。また辞退する場合に比べて受諾する際はよりレスポンスが早いことがわかります。

査読の提出にかかる日数

査読の提出には全体の平均で14.15日、英文誌では12.84日、和文誌では16.20日かかっていることがわかりました。英文誌を対象とした査読者の所属国別の集計結果をみると国内12.78日、海外13.19日とどちらも全体平均を下回っています。このことから英文誌は和文誌に比べて査読期間が短い傾向にあることがわかります。

査読依頼の多い国トップ10

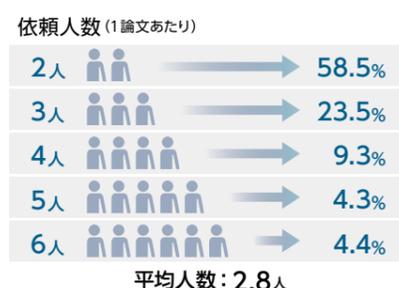
集計対象の中で英文誌かつ査読者の所属国が特定できるデータを所属国ごとに集計し、査読依頼数の多い国をまとめました。トップである日本への査読依頼は

	査読依頼数	査読依頼返答結果 (%)									平均応答日数			平均査読日数
		受諾	辞退	1日以内	3日以内	5日以内	7日以内	7日以上	返答無し	総合	受諾	辞退		
総合	47,034	72.2	19.8	53.2	17.7	12.9	4.8	3.4	8.0	1.9	1.7	2.4	14.1	
雑誌言語別	英文誌	32,150	68.4	21.1	51.9	18.0	11.6	4.2	3.9	10.5	1.9	1.6	2.4	12.8
	和文誌	14,884	80.5	17.0	56.2	17.2	15.7	6.1	2.4	2.5	1.8	1.7	2.1	16.2
査読者国別 <small>英文誌のみ</small>	日本	24,971	74.5	18.9	55.2	19.3	11.7	3.8	3.4	6.5	1.8	1.7	2.2	12.8
	海外	6,740	46.4	29.0	40.2	13.2	11.1	5.3	5.6	24.6	2.4	1.7	2.7	13.2
	アメリカ	1,237	35.8	40.2	41.1	12.3	11.0	5.7	5.9	24.0	2.5	1.4	2.3	15.8
	韓国	1,171	57.3	17.4	38.9	13.5	9.5	4.7	8.1	25.3	2.7	1.7	3.2	11.0
	中国	1,027	55.0	19.9	40.7	13.9	11.7	4.6	4.0	25.1	2.1	1.7	3.1	11.2
	ドイツ	301	30.9	43.2	39.2	14.6	11.0	4.3	5.0	25.9	2.2	1.6	2.0	13.7
	イギリス	242	36.0	38.4	36.0	10.7	15.3	9.1	3.3	25.6	2.5	1.6	2.5	14.3
	台湾	229	56.8	26.6	51.1	17.0	8.7	4.4	2.2	16.6	1.7	1.6	1.4	12.9
	イタリア	195	49.2	32.8	39.0	16.9	13.8	4.6	7.7	17.9	2.8	2.3	3.5	15.0
	オーストラリア	177	50.3	29.9	41.2	11.3	14.1	7.3	6.2	19.8	2.8	1.4	4.3	14.1
	インド	168	56.5	15.5	44.0	9.5	10.7	3.0	4.8	28.0	2.0	1.6	4.8	12.7
その他	1,993	43.8	30.7	39.1	13.0	11.2	5.6	5.4	25.6	2.3	1.6	2.7	14.8	

24,971件、これは英文誌で行われた査読依頼の実に77.7%という結果になりました。以降はアメリカ、韓国、中国と続きトップ10は欧米とアジア諸国がほぼ半々となりました。査読受諾率は日本、韓国、台湾、インド、中国の順に高く、査読日数は韓国、中国、インド、日本、台湾の順で短いとの結果になりました。近年は学术界においてもアジア諸国の躍進が話題に上り投稿数が年々増加傾向にあるようですが、そのぶん査読にも協力的な方が多いのかもしれませんが。

2名の査読者を決定するために必要な候補者の人数

今回の集計では約20%の確率で査読を断られてしまうことがわかりました。そこで1論文に対して何人に査読依頼を行っているのかをまとめてみました。集計は査読依頼が行われており、かつ2名の査読者がアサインされている論文を対象といたしました。2名の査読者をアサインするために必要となった候補者の人数を集計したものが次の表です。

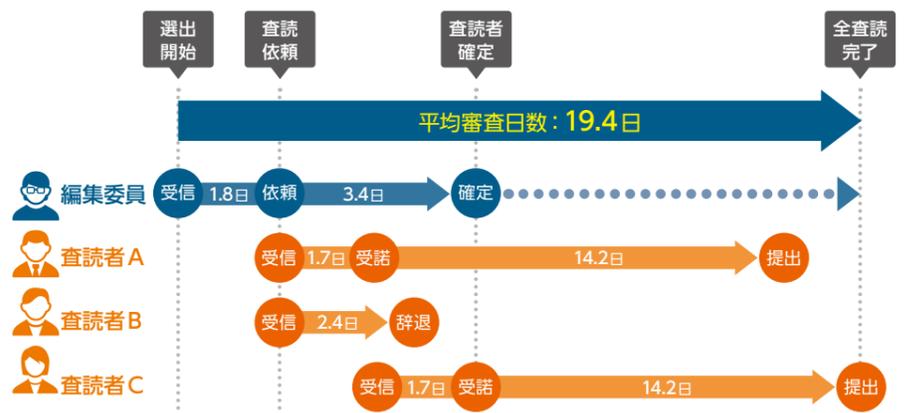


2名に査読依頼をしてそのまま2名と

も受諾いただいた論文の割合は58.5%でした。3人目の候補者に受諾いただいた割合とあわせると、約80%の確率で査読者を決定できているようです。また2名の査読者決定にかかる平均人数は2.8人ですので、査読者選出の際にはあらかじめ

3人目の候補者を選出していただきますと審査工程がよりスムーズになるかもしれません。なお6名以上に依頼してもなかなか査読者が決まらない論文もあり、最大で24名の候補者に依頼を行っている論文もありました。

査読者の選出から全査読提出までにかかる日数



上の図は査読者の選出開始から査読が完了するまでにかかる日数の平均値をまとめたものです。編集委員の操作に着目すると査読者の選出開始から最初の査読依頼まで平均1.8日、審査に必要な査読者が決まるまでは平均3.4日でした。一方査読者は査読依頼への応答に受諾の場合平均1.7日、辞退する場合は平均2.4日でした。査読の受諾後、査読を提出するまでは平均14.2日でした。各工程の平均値を合計すると、査読者の選出開始から全査読の完了までは平均19.4日となりました。

まとめ

査読者の活動に関するデータを様々な視点で集計いたしましたがいかがでしたでしょうか。もちろんジャーナルによって適切な基準は異なりますが、こうしたデータと比較することでジャーナルの状況を確認する手助けになれば幸いです。なお弊社ScholarOneサポートセンターでは貴誌の論文投稿数や査読期間の推移や査読実績などレポートの作成代行サービスを行っています。貴誌の状況を確認するうえで詳細な情報をご希望の場合は是非お声掛けください。

機能紹介

Reviewer Locator ~ 30日間無料トライアル実施中! ~

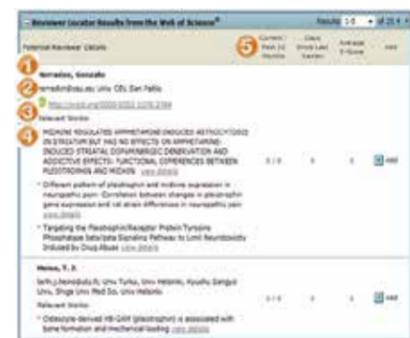
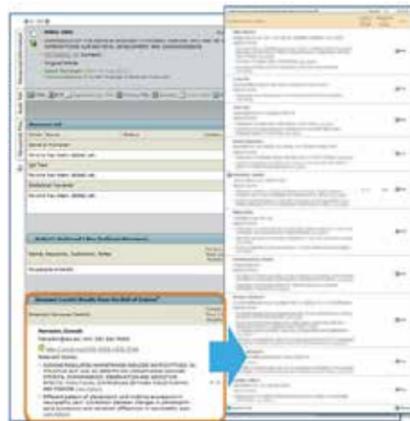
S1Mには2014年よりReviewer Locator (RL) というオプション機能が備わっています。RLは、S1Mに投稿された論文の書誌情報をもとに、最適な査読候補者を最高水準の調査研究プラットフォーム「Web of Science (WoS)」に収録されている研究者データの中から自動で選定し、S1Mの査読者選出画面にリスト表示させます。

海外のジャーナルでは大変好評で、既に2,800誌を超えるジャーナルで本オプション機能が導入されており、国内でも一昨年のユーザーカンファレンスでのご案内以降、複数の学協会様からお問い合わせをいただき、導入いただいております。とはいえ、ユーザーカンファレンスにご参加いただけなかった方も含め、まだ十分にご案内ができていないかとも思われますので、改めて紹介させていただきます。

トムソン・ロイターが調査した昨年11月までの利用状況の統計では、全S1M利用ジャーナルの43%が導入し、50万以上の論文でRLが利用されていたとのことです。また、RLで推薦された研究者のうち140万人が査読者候補として選出され、40万人の方に査読が行われておりました。

海外でのRLの導入事例として、米国でのユーザーカンファレンスの際にCanadian Science Publishing (カナダ) という出版団体が発表した内容では、同団体が運営する17ジャーナル中の3ジャーナルで導入検討のテストを行い、エディターの使用頻度やテスト後のアンケート調査の回答結果が良かったことから、2014年7月より17ジャーナルすべてのサイトにRLを導入することを決定したようです。また、導入後のエディターからの感想も、「非常に助かる」「時間がかなり節約できる」など、好評をいただいているようです。国内で導入されている学協会様からも、「導入後、審査員の海外比率を大幅アップさせることができます」などの嬉しいお言葉をいただいております。

現在、英語サイトをご利用の学協会様を対象に30日間無料トライアルを実施しています。ご興味ございましたら、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。



Reviewer Locatorによる査読候補者の表示例 (査読者選出画面)

論文が投稿されると同時に、S1MがWeb of Scienceに収録されている研究者データの中からこの論文に最適な査読候補者を自動選定しリストアップします。リストは査読者選出～査読中ステータスの画面上で常に表示されていますので、エディターはいつでもリストを確認し、リスト内の適切な候補者へ査読依頼を行えます。また、既に査読を依頼する方がお決まりの場合は、リストを使用せずに通常の査読者検索機能を使用して査読依頼を行うことも可能です。

Reviewer Locatorで表示される情報

査読候補者のリストには、研究者氏名、メールアドレス、所属機関、ORCID ID、過去に発表した論文、の順に情報が表示されます。さらに、S1Mサイト内に査読者アカウントが既に登録されているユーザーには、画面右側に査読実績データが表示されます。査読候補者は最大で30人までリストアップされます。

論文ごとの詳細情報

過去に発表した各論文タイトルの後ろに表示されている「詳細表示」リンクより、WoS上で該当論文の詳細情報を確認することができます。詳細情報画面では、論文タイトル、全著者名、掲載ジャーナル名と掲載年、DOIのリンク、WoS内の論文へのリンクの順番で、それぞれの情報が表示されます。

2016年は、16ジャーナルでS1Mの運用が開始されました!

- 日本看護科学会誌 (日本看護科学学会)
- 自律神経 (日本自律神経学会)
- 産業衛生学雑誌 (日本産業衛生学会)
- The Bulletin of Tokyo Dental College (東京歯科大学)
- 医学検査 (日本臨床衛生検査技師会)
- 日本獣医師会雑誌 (日本獣医師会)
- 日本病院薬剤師会雑誌 (日本病院薬剤師会)
- Journal of Mammalian Ova Research (日本卵子学会)
- 高分子 (高分子学会)
- 科学教育研究 (日本科学教育学会)
- Journal of the Anus, Rectum and Colon (日本大腸肛門病学会)
- 小児耳鼻咽喉科 (日本小児耳鼻咽喉科学会)
- リメディアル教育研究 (日本リメディアル教育学会)
- アレルギー (日本アレルギー学会)
- Spine Surgery and Related Research (日本脊椎脊髄病学会)
- 日本頭痛学会誌 (日本頭痛学会)

編集後記

今号は査読者選出～査読提出までの集計データのご紹介でした。「審査の際に蓄積された様々なデータを活用してジャーナルのインパクトを向上させる」ということが海外のジャーナルでは旬なテーマとなっているようで、今年の開発元のユーザーカンファレンスでも査読に関する集計データの発表がありました。今回のS1M NEWSで取り上げた項目以外でも、より詳細なデータや別のデータをレポート機能で抽出することができますので、ぜひ皆様のジャーナルでもレポート機能をご活用ください。操作の際にご不明点などありましたらお気軽にサポートセンターまでお問い合わせいただければと思います。また、S1MではReviewer Locator以外にもAuto-decline(査読依頼に対して諾否回答がない場合に自動で辞退させる機能)、Alternate Reviewer(待機査読者を事前登録する機能)、Suggest Alternate(査読辞退者に別の候補者を推薦してもらう機能)など、査読者選出の作業を支援するための様々なツールが備わっています。機能に関するご質問や設定のご希望につきましてもサポートセンターへご連絡ください。最後になりますが、昨年もおかげさまで16ジャーナルでS1Mの運用を開始いただきました。日頃S1Mをご愛顧いただいている皆様へあらためて感謝申し上げます。

S1M NEWS

2017年5月29日発行 第13号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311 FAX. 03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp



ScholarOne Manuscripts User Conference

海外セミナーに参加しました!

2017 ScholarOne Manuscripts User Conference (Madrid) と Clarivate Analytics Publisher Forum (Philadelphia) に参加しました。

S1Mの開発元である Clarivate Analytics が世界中の S1M 利用学協会・出版社・販売代理店に向けて毎年開催している「ScholarOne Manuscripts User Conference」が今年は5月3・4日にスペインのマドリードで開催されました。

今年のテーマは「Knowledge into Action」とのことで、Modern Human の Paul-Jervis Heath 氏による学術業界における Ethnographic Research についての講演の他、運用事例やロードマップなど様々なプログラムが催されました。また、Clarivate Analytics 一弊社間で毎年恒例となっている User Conference 前日の打ち合わせでは、近日リリース予定の会議ツールのシステム動作や、Web Service (S1M と外部システムを連携させ

る機能)などの仕様について確認しました。その他、3月28日に Clarivate Analytics の本社(アメリカ、フィラデルフィア)で開催された Publisher Forum にも弊社スタッフが参加し、多くの情報を得てまいりました。これらのイベントで得た情報は次号 S1M NEWS で掲載を予定しています。楽しみにお待ちください!

